

社長の つぶやき



梅の花が咲く3月17日、「昨日だったら雨で大変だったよね」「今日でよかったですよね」「平素の行いが良いから、天気になったんだよ」と楽しく話をしながら、山口県萩市須佐にある須佐歴史民俗資料館から、近くにある益田家の墓地へ掃除のために歩いて向かった。

墓掃除の集合場所は、須佐歴史民俗資料館であったが、「須佐歴史民俗資料館、それって何処」とグーグルで調べてみると、「いつも通っている国道191号の右側じゃないか、なんだあそこか」と思いながら車で急いだ。着いて須佐歴史民俗資料館の中を見て「こんな素晴らしい資料館があったのか」と驚いた。

今年1月の益田木鶏クラブ(人間学を学ぶ月刊誌『致知』の読者が人格形成を目指し、心を高めるとともに真摯な生き方を探求している者の集まり)例会において、「須佐にある益田家の墓地が山の中にあり掃除が難しい、かなり古く傷んでいるが資金が不足しており修復が難しい」との話聞き、「益田市の発展のため

にご尽力された方々のお墓だから、萩市にあるとはいいながらも、掃除をするのは我々益田市民の務めだ」と益田木鶏クラブで掃除をし、若干ではあるがクラブの余剰金と益田市民にも呼びかけ寄贈しようとした。

3月初旬に、知人から2月15日に発行された橋本升治著、文芸社発行の『信じられず候』(家康を袖にした男、益田元祥ものがたり)を頂戴した。なんと云々タイムミングなのか、益田家の方からの贈りものか、天からの授かりものかと思ひ、この本を、掃除の時までには読み終えようと読み始めたが、右目を白内障手術したら遠方は見えるが、近くが見えず本を読むのが辛い状態となったので、左目の手術を終えてから読むことにした。

益田家の墓は、須佐歴史民俗資料館の裏手にあり、須佐湾が一望できる素晴らしい景色の場所であった。



当日は益田から6名が参加、NP O法人須佐元気なまちづくりネット事務局とボランティアの方1名にご参加いただき掃除をした。

掃除後、まちづくりネット事務局長の須佐にまつわるお話を聞き、資料館でも様々な説明をいただき大変感謝している。

お話を聞いた中で興味を持ったのが、日露戦争で須佐に漂着したロシア兵33人を須佐の法隆寺に収容し、食事等を提供し本国へ帰還させたことのお話を聞き、素晴らしいと感動したのである。

須佐の歴史探訪は歩いて2時間程度で出来ることのお話を聞いたので、社員と共に出かけてみたい。

わが社の ほっとニュース



タイピック社内木鶏会に

致知出版社の柴田さん登場!

毎月行っている社内木鶏会(社内で人間学を学ぶ勉強会)。部署の垣根を越えて、意見交換を行う社内木鶏会は、話す機会の少ない部署の社員同士が一緒に感想を交わすことで、会社やお互いについての理解が深まり、また記事内の経験談や教訓を共有することで、社員同士の連帯感や連携力も高まります。

先月の社内木鶏会に致知出版社の柴田さんに参加していただき、いつも増して、活気あふれる木鶏会になりました。



致知の感想

天我が材を生ず用あり 村上 貴志

今回の致知を読んでの感想は、この世に生まれて来たという事は、自分にも役割使命を与えられて来ているのだと思えました。この世界に何億の人がいるなかで、日本人に生まれ、この地域に生まれたことも、何かの役割使命があるのだと思えました。文中に「又は志や理想を持つて人となる。志夢理想を持つてことが前提と書いてありました。人として様々な役割使命がある中で自分の役割を知っていかないと、人として成長出来ない」と思いますし、そのためには、何事にも精いっぱい取り組み、多くの事を学んでいかないと、持つ役割が分かつかないと感じました。仕事においても、今の会社に入っていることは何かの役割使命かもしれないと思います。

その中で自分がどうしたいのか、と一つのをしつかりと考えて、行動し、夢や理想と一つのをしつかりと持つて打ち込んでいかなければいけないと思えました。まずそれをやるには、自分には何があり、自分をどうしたいのかを考え、役割使命が分かってくるように日々勉強していきな



益田教室

清水 壮一

いよいよ53歳になり、50代を少しずつ進んでいってます。時折、50代で亡くなられる方の話が出ると、身体には気を付けようと思います。パソコン教室の生徒さんも60代以上の方が大半ですので、人生を終えるまでのことを意識することが多いですが、パソコン教室においてラッキーだということも思います。

ここに来られる生徒さんは、前向きで元気な方ばかりですので、このように生きていけばいいのかと希望が持てます。いろいろな方の生き方を参考にさせて頂いて、自分の第2の人生の予想図をいろいろと思いつくことができそうです。

私の家庭は、子供が中学生で両親も健在ですので、これから一番大変な大波がやって来ますが、なんとか夫婦で協力して乗り越えていけるようにしたいと思います。大波を越えた後の人生も見据えながら、太平洋を渡るヨットのように楽しめればいいなと考えております。



OA事業部システム課 井上 良輔



早いものでタイピックに入社して1年が経ちました。今年で42歳になりましたが、40歳を越えてからだんだんと自分が何歳なのか、わからなくなってきました。(笑)

いろいろな面で無理も利かなくなってきたので健康面では特に気を使っていると思います。この一年間はあつという間だったなと感じます。

忙しいという言葉を使うとよくないのですがいろいろな意味で余裕がなかったようにも思います。そんな中で仕事ではもちろん、プライベートにおいてもたくさんの方々に本当によくしていただきました。昨年、入社にあたっての自己紹介文に「縁」をテーマに書いたように思いますが、こうして皆さまにお世話になっていることで、縁って本当にあるんだなと思います。

今も現在進行形で日々勉強の最中ですが、少しずつでも余裕を作り、もっと周囲に気を配ってあげたらと考えています。少しずつ育った街に恩返しができるようにがんばってまいります。



廿日市教室

今田 直美



人生も折返し地点にきたのかなと思う誕生日を迎えます。この一年は早く、何か小さいことでも成長できた年だったのかなと反省してしまいました。そして、当たりの毎日が当たりの前でないこと、健康に生活できることに感謝しています。

日々の生活で自分に余裕がなく、本来の思いや目的を見失いがちになってしまいます。老化は心からだそうです。身体などは皆意識してしましますが、心の意識は欠けていたと思います。パソコン教室に来られる生徒さんは60〜70代の方が多いのですが、みなさん若々しく心が豊かに楽しい毎日をおくられています。私もそうありたい、心にも時間にも余裕をもって毎日を楽しく過ごせるよう心がけます。

「シクシク」泣き、「ハハハ」と笑う。4×9=36 8×8=64で答えを足すと100。人生100とすると悲しいことは36、嬉しいことは64で、嬉しいことは倍近く有ります。どんなに号泣(5×9=45)しても、半分以下。何事も楽しみながら行動を一日々成長できる自分でごんばっていきま



「いい写真」ではなく「あなたの写真」が見たいから

写真コンテスト

フォト575・水彩画・お絵かき 2017

益田 浜田 廿日市
秋 宇治
5教室合同開催

ゆつくり やさしい
パソコン教室
同じことを100回聞かれても笑顔でお答えします

投票結果発表!!

【投票期間 2018.2.13~3.10】

写真部門



タイピック賞
「秋は夕暮 日没3秒前」
岸田 幸子さん (益田)



社長賞
「春の楽しみ」
安永 壽子さん (益田)

教室賞受賞作品



「水行」
大久保 優子さん (益田)



「アザミの花の旅立ち
いつてらっしゃーい」
尾木 洋子さん (益田)



「いざ! 出立!」
仲井 太一さん (廿日市)



「朝霧の参道」
久保 智完さん (益田)

写真部門
応募 66 作品

フォト575部門



タイピック賞
「鰐淵寺」
藤本 弘子さん (益田)



社長賞
「お客様」
岸田 幸子さん (益田)

フォト575部門
応募 26 作品

教室賞受賞作品



「枝歩き」
富永 正裕さん (宇治)



「来たよ、来た!」
大庭 乾次さん (益田)



「孫の寝顔を見て」
佐藤 ひろ子さん (廿日市)



「雪の中で」
伊藤 千枝子さん (益田)



「夢の瑞風号」
清水 千恵子さん (益田)

ワードでお絵かき部門



タイピック賞
「清水寺の紅葉」
竹内 昌子さん (益田)



社長賞
「希望の朝」
吉原 優子さん (廿日市)

教室賞受賞作品



「あいつら
何喋ってんだ?」
森 京子さん (浜田)



「イルカの親子」
糸賀 義人さん (益田)



「春近し、ウグイスの声」
尾木 洋子さん (益田)



「美女」
片島 和夫さん (廿日市)



「S婦人」
武岡 誠子さん (廿日市)

お絵かき部門
応募 14 作品

水彩画部門



タイピック賞
「やっと来ました東京へ」
尾木 洋子さん (益田)



社長賞
「桜の里」
永山 洋子さん (廿日市)

水彩部門
応募 10 作品

教室賞受賞作品



「田舎風景」
山本 美都恵さん (廿日市)



「和傘を挿した芸者」
野村 隆谷さん (廿日市)



「こんとあき」
武岡 誠子さん (廿日市)



「郷愁」
佐藤 ひろ子さん (廿日市)



「牛窓の海」
原田 弘隆さん (廿日市)